

入札事務のDX推進

【予算額】331,819千円

担当 入札審査課 システム担当
内線 5181

目的

入札事務の更なるDX化を推進することにより、事業者の利便性向上や職員の業務効率化等を図る。

事業概要

寄附募集事業

1 電子入札共同システムの再開発

331,819千円

(1) 電子入札共同システムの再開発 (令和6年度 499,003千円、令和7年度 331,819千円)

市町村等との共同利用システムの再開発及び稼働（運用開始）により、入札事務の更なるDX化を推進する。

- ・ 完全オンライン化により、工事等の入札の6割を占める事後審査型のペーパーレス化と事業者の利便性向上
- ・ 画面刷新、操作性向上及び入札参加資格審査の進捗状況の見える化による事業者の利便性向上
- ・ 必要なデータの取出機能により、統計資料作成等における職員の業務効率化やデータ分析による入札制度運用の改善
- ・ 市町村等へのデータ提供による情報の共有化

開発から約20年経過した入札システムがDXのネックに・・・



入札における紙書類のやり取りが残り非効率



旧態化により手入力が多い画面

新機能等を備えた入札システムにより
事業者の利便性向上！職員の業務効率化！市町村等との情報共有！

完全オンライン化



書類の印刷・郵送が不要

画面刷新



操作の補助機能による
スムーズな入力

データ
取出



統計資料作成等の業務効率化
データ分析による入札制度運用改善
市町村等へのデータ提供

【スケジュール】

